2022 あいち環境塾

公衆衛生（well-being）から考えるＳＤＧｓ実践

中級コース
氏名：藤井　和喜（あいち環境塾 13 期生）
プログラムマネージャー 小林　敬幸
アドバイザリー講師：窪田　光宏、奥岡　桂次郎

＜はじめに＞

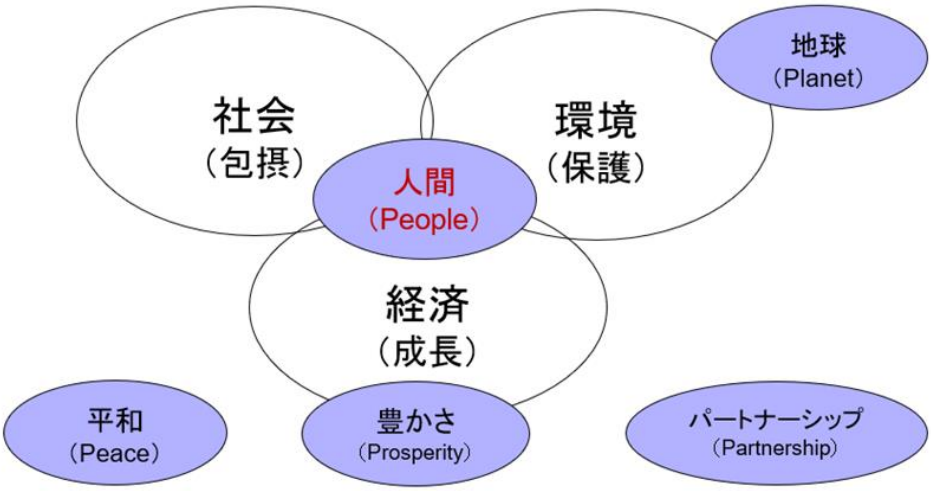
(1) ＳＤＧｓとは

2015 年 9 月開催の国連サミットで採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」（下記）の目標であり、アジェンダの「原則と価値観」（誰一人取り残されない等）や「性質」（普遍性、不可分性、変容性）のもと、2030 年までにＳＤＧｓを実践し、世界を良い方向に変革していこうという国際的な約束ごとである。

構造	内容
原則と価値観	①誰一人取り残されない （No one will be left behind） ②持続可能な開発の三側面 経済（成長）、社会（包摂）、環境（保護）
性質	①普遍性（Universal） ②不可分性（Indivisible） ③変容性（Transformative）
ビジョンと目標 （ＳＤＧｓ）	①17 の目標（Goals） ②169 のターゲット（Target） ③232 の指標（Indicators）

(2) 持続可能な開発の三側面と重要領域（５つのＰ）

ＳＤＧｓを実践するためには、５つの重要領域のうち「人間（People）」を中心に、経済（成長）、社会（包摂）、環境（保護）の三側面を調和させることが重要である。

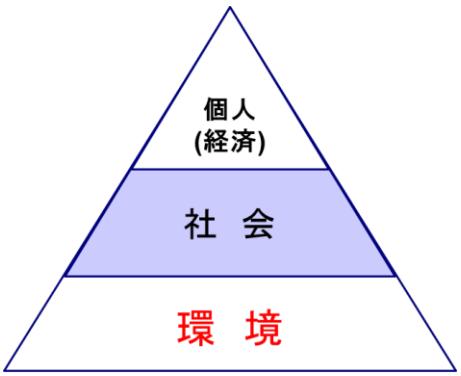


1.　公衆衛生（well-being）を公害やコロナ禍から考える

(1)公衆衛生とは

人間の健康を保持増進することを目的とした科学、活動のことで、ここでいう「健康」とは、ＷＨＯの定義にもあるようにwell-being（肉体的にも、精神的にも、社会的にも、すべてが満たされている状態）を指す。個人（経済）、社会、環境のすべての面で健全であるという点で、持続可能な開発の三側面とも合致するものである。

個人（経済）
：病気にならない
　経済困窮しない
社会
：人と人のつながりが健全
環境
：人と環境のつながりも健全



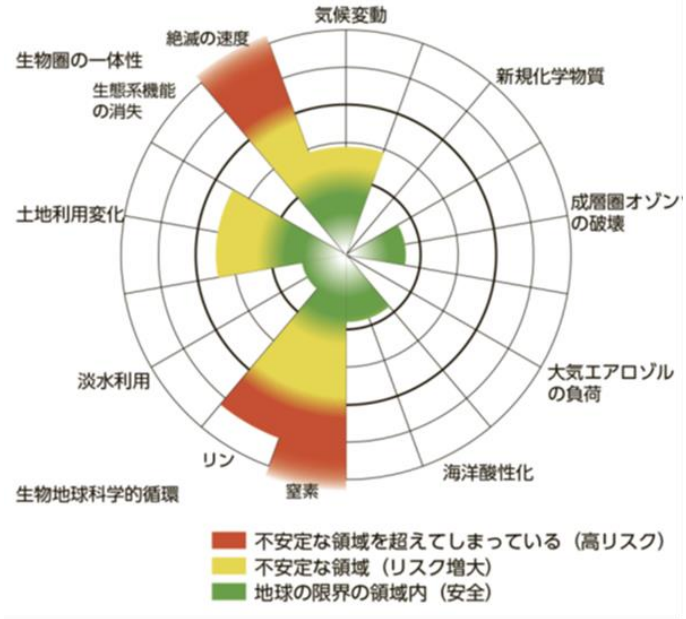
(2)公害の観点から考える

公害の観点から考えるため、2022年6月5日に開催されたＳＤＧｓシンポジウム（中部ESD拠点協議会主催）に参加し、四日市公害判決50年展（四日市公害と環境未来館）も見学した。

そこで感じた産業公害の特徴は大きく２つあり、１つは科学的根拠不足により社会的な差別（スティグマ）が発生した（偏見による差別に苦しめされた）こと、２つ目は政策面での対立が被害を拡大（経済優先の政策誘導が公害対策を遅らせて患者の健康被害を拡大）させたことである。

また、公害は時代とともに経済問題、環境問題、社会問題へと課題が変化し、2015年の国際的な約束事ＳＤＧｓの採択に至っており、今、ＳＤＧｓで解決が求められている「地球温暖化」や「生物多様性喪失」などの新たな公害は「環境負荷が地球の限界を超えていること」、「社会分断が大きな課題となっていること」が特徴といえる。

そして、生物多様性喪失と新型コロナウイルス感染症には大きな関係があり、新型コロナウイルス感染症のパンデミックは地域のwell-being、私達の生活にも大きな影響を及ぼしている。



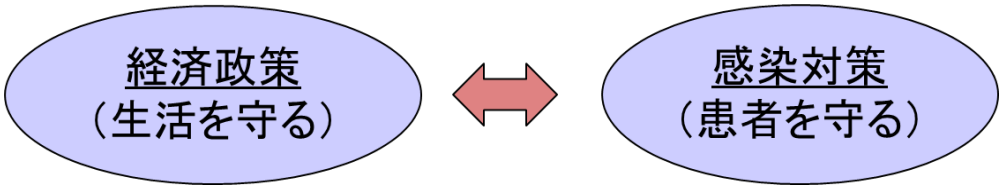
資料：Will Steffen et al.「Planetary boundaries :Guiding human development on a changing planet」より環境省作成

⑶ コロナ禍の観点から考える

愛知県職員としてコロナ関連業務（医療物資調達業務、保健所応援業務など）にも携わったが、そこで感じたのは、コロナ禍の状況は産業公害と同様の特徴があること。１つは科学的根拠不足により社会的な差別（スティグマ）が発生したこと、２つ目は政策面の対立が発生していることである。

そして、対立する政策である感染対策（患者を守ること）と経済対策（生活を守ること）を両立させ、公共の福祉を実現することがいかに難しいか、誰一人取り残されないことがいかに難しいかを感じさせられた。

また、コロナ禍の特徴は人々のメンタルヘルスへの影響が大きく、自殺者数が増加するなど孤独・孤立の問題が顕在化・深刻化したことである。



⑷ 公害や感染症の歴史

発表補足として、公害や感染症の歴史（生命や人類の歴史を含む）についても発表巻末資料にも掲載した。その概要は、次のとおりである。

時代・年代	公害の歴史	感染症の歴史
46 億年前（地球誕生） 35 億年前（生命誕生） 約 5 億 4000 万年前（カンブリア紀の生命大爆発） 約 4 億 4500 万年前（オルドビス期末・1 回目大量絶滅） 約 3 億 7400 万年前（デボン紀後期・2 回目大量絶滅） 約 2 億 5200 万年前（ペルム紀末・3 回目大量絶滅） 約 2 億 100 万年前（三畳紀末・4 回目大量絶滅） 約 6600 万年前（白亜紀末・5 回目大量絶滅）		

時代・年代	公害の歴史	感染症の歴史
250 万年前（ホモ（ヒト）属がアフリカで進化）		
200 万年前（ユーラシア大陸に拡がり、異なる人類種が進化）		
7 万年前（ホモ・サピエンスの認知革命:虚構の言語）		
3 万年前（ネアンデルタール人が絶滅）		
1 万 3000 年前（ホモ・フローレシエンシスが絶滅）		
1 万 2000 年前（農業革命:定住化・家畜化）	森林伐採が地球の生態系のバランスを崩す始まり	定住化・家畜化が感染症（パンデミック）の始まり
		パンデミック（天然痘、ペスト、コレラなど）の発生により多くの人命が失われ、外来感染症で先住民が絶滅
500 年前（科学革命:資本主義の台頭）		
200 年前（産業革命:家族とコミュニティから国家と市場へ）	農薬使用による公害（自然水域の汚染、家畜の汚染、残留農薬による食品汚染）	結核の大流行
第 1 次世界大戦	鉱山開発による公害（大量の鉱さいが河川を汚し、下流の田畑や漁業に被害）	スペイン風邪の大流行
第 2 次世界大戦	労働災害や職業病が頻発	

時代・年代	公害の歴史	感染症の歴史
1972 年　国連人間環境会議（ストックホルム）	工場の廃棄汚染物による地域住民の公害健康被害が多発（４大公害など） 都市・生活型公害（水質汚濁、近隣騒音問題、廃棄物処理の問題など）が顕在化	天然痘の根絶
1992 年　地球サミット（リオデジャネイロ） 2000 年　国連ミレニアムサミット 2015 年　国連持続可能な開発サミット 現在（6 回目大量絶滅が進行中）	地球環境問題（気候変動、生物多様性など） MDGs 採択 SDGs 採択	新興感染症（エイズ、エボラ出血熱、SARS など）の発生 新型コロナウイルス感染症のパンデミック

(5) 第１章まとめ

公害やコロナ禍から見た公衆衛生とは「科学的根拠に基づき判断し、対立する政策を両立し、ウェルビーイングを守ること」と言える。そして、（愛知県で）ＳＤＧｓを実践するうえで重要なのは、地域の well-being を守り続け、公共の福祉を実現することである。

①差別（スティグマ）を発生させないため
真実（科学的根拠）に基づき判断し

②「衛生（公害、感染症から守る）」と「経済（生活を守る）」の
対立する政策を両立し

③個人（経済）、社会、環境のすべての面で
健全な状態（well-being）を守ること

2.　未来のあるべき姿とは

(1)第１章から私が考える 2050 年のあるべき姿とは

well-being が実現されていること、すなわち、個人（経済）面で精神と身体のバランスがとれ貧困や困窮のない生活が実現し、社会面で活発なコミュニティがあり人と人がつながる社会が実現し、環境面で身近な自然と調和しており食の安全確保が実現されていることである。

そのために誰一人取り残されず、そして、あらゆる主体が自分事として実践することである。

①個人,社会,環境のすべての面、地球上のすべての地域において
well-beingが実現されていること

②そのためには、SDGsの17目標が同時に実践され
誰一人として取り残されないこと

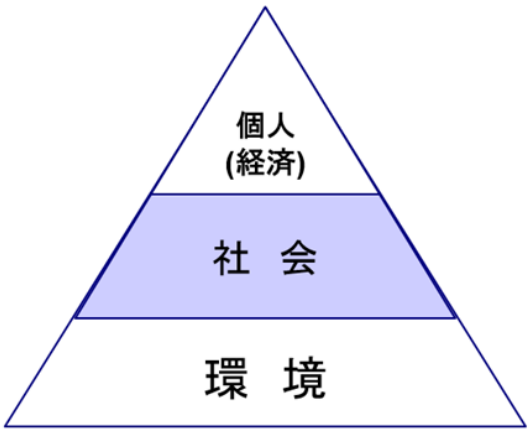
③そして、未来の社会を変革するため
あらゆる主体が自分事として実践すること

※well-being の未来のあるべき姿とは

・精神と身体のバランスがとれ、貧困や困窮のない生活

・活発なコミュニティがあり、人と人がつながる社会

・身近な自然と調和しており、食の安全が確保



・個人、社会、環境のすべての面、地球上のすべての地域において well-being を実現するという点でアジェンダの性質「普遍性（Universal）」に通じるものである

・ＳＤＧｓの 17 目標を同時に実践するという点でアジェンダの性質「不可分性（Indivisible）」に通じるものである

・未来の社会を変革するという点でアジェンダの性質「変容性（Transformative）」に通じるものである

(2)愛知の 2050 年のあるべき姿

そして、この地域（愛知）の 2050 年のあるべき姿は、あらゆる主体が自分事として社会変革を実践し、地域循環共生圏が実現されていること、すなわち、「地域循環」と「共生社会」の実現により、愛知の「well-being、誰一人取り残されないこと」を目指すものであると考えた。

ここでいう「地域循環共生圏」とは、国の第五次環境基本計画において提唱された概念（各地域が足もとにある地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、環境・経済・社会が統合的に循環し、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方）であり、地域での SDGs の実践（ローカル SDGs）を目指すものである。

あらゆる主体が自分事として社会変革を実践し　ローカルSDGs

愛知の**地域循環共生圏**が実現されていること

⇒愛知のwell-being、誰一人取り残されないことを実現

地域循環共生圏ポータルサイト（環境省 HP）より

なお、愛知の地域循環共生圏を実現するにあたり、重要な要素（ファクター）となるのが人口構造である。

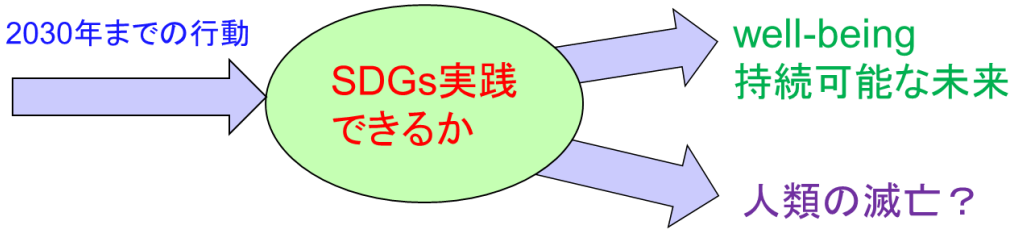
地球全体では人口が 80 億人に達し、2100 年には 100 億人を突破、人口が安定するのは 22 世紀になると言われているが、愛知県では 2020 年頃をピークに減少に転じ、世界に先駆けて、人口の定常化した社会を迎える。

そのため、人口の定常化した社会を前提に、2050 年の持続可能な愛知がどうあるべきか想像することが重要である。

3.　今こそ行動すべきとき

(1) ＳＤＧｓの実践

人々及び地球の well-being、持続可能性を保つことは人類共通の課題であり、ＳＤＧｓの実践（2030 年までの今の行動）が人類の未来を左右するといえる。



愛知の 2050 年のあるべき姿を実現するための「私自身の実践活動（私自身が実践可能なこと）」、「愛知県の実践活動（愛知県への提案や、県の大イベントを契機とした愛知の魅力発信など）」を考えた。

(2) 私自身の実践活動（2025 年までに私自身が取り組みたいこと）

１つ目は今回の「あいち環境塾」での発表をさらにブラッシュアップし、勉強会の開催など職場内外で危機感の共有、ＳＤＧｓを発信することである。

例えば、自職場内でＳＤＧｓ勉強会を開催、県環境局の協力のもと自治研修所（愛知県職員と県内市町村職員のための研修施設）等を活用した県職員・市町村職員向けの自己啓発勉強会を開催するなど、の取り組みを考えていきたい。

そして、ＳＤＧｓの実践は１７の目標をそれぞれ考えるだけでなく、危機感を共有し、アジェンダの考え（誰一人取り残されないこと、普遍性・不可分性・変容性など）のもと実践を考えることが重要であるため、この点を訴求できるよう取り組みを考えたい。

・職場内のSDGs勉強会
・自治研修所等を活用した県職員・市町村職員向け自己啓発勉強会　など

（愛知の2050年のあるべき姿をバックキャスティングで考えるため）

県内の公務員向け勉強会

・危機感、SDGsの重要性を共有

・SDGsターゲットから地域課題を深掘り　巻末資料参照

社会	健康格差	日本では、急速な高齢化で独居老人、健康弱者が増大 →　孤独・孤立の対策が急務
経済	都市・コミュニティ	都市化・情報化の進展で自然や身体性との乖離が発生 →　自然の再評価、人のつながり（コミュニティ形成）が重要
環境	プラネタリーヘルス	人の健康はコミュニティ，社会，生態系，地球と相互依存関係 →　分断思想から統合思想への転換（変容）が重要

なお、私なりにＳＤＧｓターゲットから地域課題を深堀り（論点整理）したものを発表巻末資料に掲載した。その概要は、次のとおりである。

三側面	ターゲット例	キーワード
社会	極度の貧困の終結 相対的貧困率の半減 飢饉の終了と栄養改善 健康生活の確保 福祉の促進 ジェンダー平等の達成 女性のエンパワーメント	貧困問題 健康格差 人権問題
経済	エネルギーアクセスの確保 再生エネルギー拡大 持続可能な経済成長の促進 ディーセントワークの促進 イノベーションの促進 都市・人間住居改善 遺産の保護・保全	ポスト資本主義 働き方改革 トランスフォーメーション 都市・コミュニティ
環境	持続可能な消費と生産 気候変動の緩和・適応 海洋・海洋資源の保全 砂漠化、土地劣化の阻止・回復 陸地生態系の保護・回復	人口問題 プラネタリーヘルス

２つ目は職場内ではスタッフの健康経営を実践、職場外では地域課題解決を常に意識して行動することである。通常業務や職場外の自主活動でもＳＤＧｓ実践を継続していきたい。

職場スタッフの健康経営※を実践

※従業員等の健康管理を経営的視点で考え、戦略的に実践すること（経済産業省HPより）

・大会準備に関わるスタッフ（プロパー職員、行政・民間等からの出向職員など）の働きやすい環境づくり

職場外でも、地域課題解決を常に意識して行動

・自主活動（環境やSDGsの学習等）を継続
・名刺でのSDGs実践宣言

(3) 愛知県の実践活動（2025 年までに愛知県が取り組むこと）

あいち環境塾所管の県環境局に「愛知県 well-being 実現プロジェクト（仮称）」の検討を提案するものである。2050 年に愛知の well-being を実現するため、縦割りを超えて連携するプロジェクトの検討をしてはどうかというもので、地域内での資源循環や共生社会、誰一人取り残されない社会の実現を部局横断、バックキャスティングで考えていこうという提案である。

コロナ後の未来、2050年に愛知のwell-beingを実現するための

愛知県well-being実現プロジェクト（仮称）の検討を提案します

・構成：環境局（事務局），県民文化局，福祉局，保健医療局，感染症対策局，経済産業局，労働局，農業水産局，都市・交通局

・部局横断により2050年の愛知の姿を目指す
社会変革のため縦割りを超えて連携
・バックキャスティングで実践
2050年のあるべき姿を目指して行動（常に修正）

地域循環共生圏の実現
well-being、誰一人取り残されない社会の実現

(4) 愛知県の実践活動（2030 年までに愛知県が取り組むこと）

あらゆるセクターと連携して 2050 年のあるべき姿を目指すため、2030 年までに愛知県の大イベントを契機として地域の魅力を発信していこうというものであり、１つ目は、ジブリパーク開園を活かして環境と共生する地域としての魅力を内外に発信することである。

（2050年のあるべき姿を各セクターと連携して実践するため）

愛・地球博の経験やジブリパークの開園を活かし

環境と共生する地域として魅力を発信

鎮守の森（里山水源に神社を祀り守ってきた）

人、ウイルスも自然との共生関係にある

２つ目は、2026 年開催のアジア競技大会、アジアパラ競技大会を契機としたレガシー創出として、スポーツを通じてウェルビーイング、あらゆる交流を通じてダイバーシティやパートナーシップをこの地域に浸透させることである。

（2050年のあるべき姿を各セクターと連携して実践するため）

2026年アジア競技大会・アジアパラ競技大会を契機としたレガシー創出

・大会を契機として、スポーツが浸透
　健康（well-being）の実現へ

・様々な価値観を受け入れる寛容な地域づくり
　多様性（diversity）
　信頼関係（partnership）の実現へ

⑸ 各セクターの役割

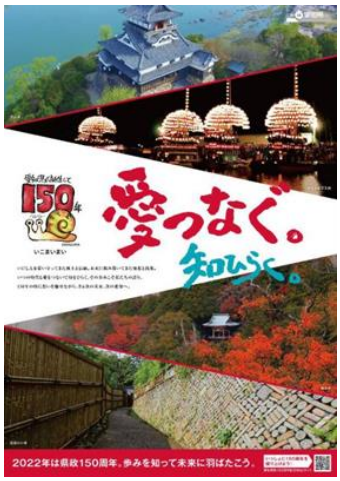
発表補足として、ＳＤＧｓ実践の主体となる各セクターの役割も発表巻末資料にも掲載した。その概要は、次のとおりである。

	セクター	期待すること
公	行政 （地方自治体）	・自然、人に軸足を置いたまちづくりを実践すること ・各セクターの橋渡し役として地域課題解決を促進すること
↓	大学	・社会・文化・歴史などの文系、自然科学・工学などの理系を融合した研究を総合的に実践すること ・企業や行政の研究機関とも連携した研究を実践すること
共	新たな地域の担い手 （市民農園・福祉農園 シュタットベルケ 労働者協同組合）	・食・エネルギー・経済の地域循環、地域の共生社会を実現すること
↑	企業	・パーパス（企業理念）を明確にし、環境・社会と両立する企業経営を実践すること ・企業（社員）が事業所所在地（居住地）で当たり前に地域活動に参画すること
私	市民	・自らの消費活動の影響（環境負荷）に関心をもち、倫理的な行動を実践すること ・人とのつながりを大切にし、共助（助け合い）を意識すること

※「公」「私」から「共」への移行によるローカルＳＤＧｓの実践が求められる

＜おわりに＞

愛知県は、2022 年 11 月 27 日に誕生 150 周年を迎えた。愛知には、歴史や自然、産業や文化など多彩な魅力があり、過去・現在から学び、伝統を大事にしつつ、2072 年の 200 周年には、2050 年までに地域循環共生圏を実現した愛知を「well-being な先進地域モデル」として世界に発信、全世界のウェルビーイングの役に立つことができればと思う。



愛知県政１５０周年記念サイト（愛知県 HP）より

4.　最終報告会における議論

⑴会場からの質疑

Q）誰一人取り残されないことが難しいとの話があったが、重要と思うことは？

A）コロナ禍での感染対策と経済対策の両立が難しいという点では、政策面で公共の福祉を実現することの難しさを実感、誰一人取り残されない政策の重要性を感じたところ。

誰一人取り残されないＳＤＧｓ実践という点では、17 の目標を個別ではなく同時に取り組み、それぞれが自分事として諸課題を取り上げることが重要だと思う。

Q）公・共・私の「共」を充実させていくべきとの話があったが、重要と思うことは？

A）コロナ禍に直面して、今の社会的な矛盾を実感し、今の社会システムや生活スタイルをそのまま継続していては危機的な状況は変わらない（社会変革が必要だ）と感じた人が多いのではないかと思う。社会変革のためには人々の連携「共」による取り組みが重要である。

また、コロナ禍で（大企業を中心に）テレワークが普及したが、IT 技術は社会変革のツールとして、さまざまな分野で活用できるのではないか。私個人としても IT の強い若い人と一緒に社会を変えていこうという寛容な心で若い人とも連携していけたらと思う。

※（後日追記分）

コロナ禍で感染リスクに晒されたエッセンシャルワーカーの重要性が認識される一方、賃金が低いなど格差問題も浮彫となった。地域で人々の生活を支える分野（介護・保育、福祉、農林業、商店街など）は市場経済だけに任せるのではなく、地域の人々が連携して支え合うことが重要であり、株式会社に代わる新たな地域の担い手として、例えば、今年 10 月に法律制定された「労働者協同組合」（労働者が組合員として出資し、地域課題を解決しようとする新しい法人制度）の活用なども深堀りしていけたらと思う。

Q）県環境局への提案があったが、内容がよくわからなかった。スポーツ局としてもＳＤＧｓに取り組んではどうか。

A）主に地域循環共生圏（ローカルＳＤＧｓ）について縦割りを超えて連携してはどうかという提案であるが、抽象的であまり具体的な内容に踏み込めなかった。

※（後日追記分）

スポーツ局としての取組は、愛知県の実践活動Ⅲで 2026 年開催のアジア競技大会、アジアパラ競技大会を契機としたレガシー創出を提案したところであるが、県各部局やステークホルダーを巻き込んだ大会併催事業としてＳＤＧｓを打ち出していくことも考えられる。県の各部局がそれぞれの立場で自分事としてＳＤＧｓを実践していくことが重要だと思う。

⑵窪田アドバイザリー講師からの講評

公衆衛生の観点からＳＤＧｓを整理した部分が新しい視点である。詳細に資料をまとめ、フィールドワークを実施していた点は良かったと思う。

実践活動として勉強会の実施などを発表いただいたが、公務員という立場で実践活動の発表が難しい面もあったと思う。実践活動は色んな人を巻き込んでいくことも重要なので、あいち環境塾のネットワークも活用し、アドバイザリー講師もうまく活用していただきたい。

⑶近藤プログラムコーディネーターからの講評

四日市で仕事をする機会があった際、公害の当事者など自分事になっている人は被害の意識が大変強いものだと感じた。well-being については、人によって幸福度、満足度に違いがあるし、給料の要求が上がっていくように well-being を満たすためには、対応を上げていかざるを得ないという面もある。社会変革（ＳＤＧｓ実践）の取り組みにあたっては今後、新しい高齢者社会のあり方を考えないといけない。

【引用文献】

はじめに
　図解ポケット ＳＤＧｓがよくわかる本（㈱秀和システム発行）

1　公衆衛生（well-being）を公害やコロナ禍から考える
(1) 図解ポケット ＳＤＧｓがよくわかる本（㈱秀和システム発行）
　　コンパクト 公衆衛生学（第６版）松浦賢長・小林廉毅・苅田香苗編（㈱朝倉書店発行）
(2) ＳＤＧｓシンポジウム（中部 ESD 拠点協議会、2022 年 6 月 5 日）
　　四日市公害判決 50 年展（四日市公害と環境未来館）
　　同・宮本憲一氏特別講演（同、2022 年 8 月 20 日）
　　４大公害資料館のパンフレット（四日市公害と環境未来館）
　　四日市公害その教訓と 21 世紀への課題 吉田克己著（柏書房㈱発行）
　　小さな地球の大きな世界　J.ロックストローム・M.クルム著（㈱丸善出版発行）
(3) 孤独・孤立対策の重点計画（2021.12.28 政府 孤独・孤立対策推進会議決定）
(4) 大絶滅は、また起きるのか？ 高橋瑞樹著（㈱岩波書店発行）
　　サピエンス全史 ユヴァル・ノア・ハラリ著 柴田裕之訳 ㈱河出書房新社発行
　　コンパクト 公衆衛生学（第６版）松浦賢長・小林廉毅・苅田香苗編（㈱朝倉書店発行）
　　愛知県環境白書（令和 3 年度,令和 2 年度）
　　人類は「パンデミック」をどう生き延びたか 島崎晋著（㈱青春出版社発行）

2　未来のあるべき姿とは
(1) 図解ポケット ＳＤＧｓがよくわかる本（㈱秀和システム発行）
　　コンパクト 公衆衛生学（第６版）松浦賢長・小林廉毅・苅田香苗編（㈱朝倉書店発行）
　　別冊 NHK100 分 de 名著 こころの深層を探る 河合隼雄著（NHK 出版発行）
　　人口減少社会のデザイン　広井良典著（東洋経済新報社発行）
　　UNEP 国際資源パネル 資源効率性に関する統合報告書 政策決定者向け要約（環境省ホームページ）
(2) 地域循環共生圏ポータルサイト（環境省ホームページ）
　　人口減少社会のデザイン　広井良典著（東洋経済新報社発行）
　　第２期愛知県人口ビジョン（愛知県庁ホームページ）

3　今こそ行動すべきとき
(2) 図解ポケット ＳＤＧｓがよくわかる本（㈱秀和システム発行）
　　コンパクト 公衆衛生学（第６版）松浦賢長・小林廉毅・苅田香苗編（㈱朝倉書店発行）
　　別冊 NHK100 分 de 名著 こころの深層を探る 河合隼雄著（NHK 出版発行）
　　NHK100 分で名著 カール・マルクス「資本論」斎藤幸平（NHK 出版発行）
　　資本主義の終焉、その先の世界 榊原英資・水野和夫編（㈱詩想社発行）
　　新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画（2022 年 6 月 7 日閣議決定）
　　新しい労働社会 濱口桂一郎著（㈱岩波書店発行）
　　雇用崩壊と社会保障 伊藤周平著（㈱平凡社発行）
　　日本の「労働」はなぜ違法がまかり通るのか？ 今野晴貴著（㈱星海社発行）
　　リーフレット「働き方」が変わります！！（厚生労働省）
　　唯脳論　養老孟司著（青土社発行）
　　人口減少社会のデザイン　広井良典著（東洋経済新報社発行）
　　コミュニティデザインの時代　山崎亮著（中央公論新社発行）
　　腸と森の「土」を育てる　桐村里紗著（㈱光文社発行）
(4) となりのトトロ©1988 Studio Ghibli、風の谷のナウシカ©1984 Studio Ghibli・H
　　公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会ホームページ
(5) 立地適正化計画 概要パンフレット（国土交通省）
　　人口減少社会のデザイン　広井良典著（東洋経済新報社発行）
　　コミュニティデザインの時代　山崎亮著（中央公論新社発行）
　　図解ポケット ＳＤＧｓがよくわかる本（㈱秀和システム発行）
　　都市農業振興基本法のあらまし（農林水産省ホームページ）
　　国土交通政策研究所発表資料（ドイツ・シュタットベルケの実態とわが国インフラ・公共サービスへの適用に向けた課題を整理、2021.3.30 公表）（国土交通省ホームページ）
　　特設サイト「知りたい！労働者協同組合法」（厚生労働省ホームページ）

おわりに
　愛知県政１５０周年記念サイト（愛知県庁ホームページ）